



## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: ノンアスジョイントシート

製品コード: 6502, 6502G, 6502A, 6502-AG

製品種類:

本製品はシート状のシール材(成形品)である。

加工の際に粉じんなどが発生することを考慮して、本SDSでは混合物としてGHS分類を行った。

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途: シール材

使用上の制限: 上記の用途以外の使用はしない

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称: 株式会社バルカー

住所: 〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘2-2-2

担当部署: 品質保証部

電話番号: 042-716-8986

FAX: 042-798-1041

作成日: 1994年12月14日

改訂日: 2023年11月 6日

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 2

呼吸器感作性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 1B

発がん性: 区分 1A

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 2(呼吸器)

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 3(気道刺激性)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 1(呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(免疫系、呼吸器、腎臓)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性): 区分 1

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 3

(注) 記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

強い眼刺激

吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれ

発がんのおそれ

臓器の障害のおそれ(呼吸器)

呼吸器への刺激のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(免疫系、呼吸器、腎臓)

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響によって水生生物に有害

#### 注意書き

##### 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

環境への放出を避けること。

粉じんを吸入しないこと。

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

##### 応急措置

漏出物を回収すること。

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場

合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

##### 貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

##### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：  
混合物

成分名	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(wt%)	化審法番号
人造鉱物繊維(ロックウール)	65997-17-3	10 - 20	-
タルク	14807-96-6	1 - 10	-
シリカ	7631-86-9	1 - 10	1-548
酸化マグネシウム	1309-48-4	1 - 10	1-465
酸化亜鉛	1314-13-2	< 1	1-561
マイカ	12001-26-2	< 1	-
カーボンブラック	1333-86-4	< 1	-
2-メルカプトベンゾチアゾール	149-30-4	< 1	5-242
硫黄	7704-34-9	< 1	-
硫酸バリウム	7727-43-7	< 1	1-89
テトラメチルチウラムジスルフィド	137-26-8	< 1	2-1820
無水フタル酸	85-44-9	< 1	3-1344

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

シリカ, テトラメチルチウラムジスルフィド, 人造鉱物繊維,  
2-メルカプトベンゾチアゾール(令和6年4月1日施行),  
タルク(令和7年4月1日施行),  
酸化マグネシウム(令和8年4月1日施行)

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

シリカ, 酸化亜鉛, カーボンブラック, テトラメチルチウラムジスルフィド,  
無水フタル酸, 人造鉱物繊維,  
2-メルカプトベンゾチアゾール(令和6年4月1日施行),  
タルク(令和7年4月1日施行),  
酸化マグネシウム(令和8年4月1日施行)

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合(作業工程で生じた粉じん/ヒューム)

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
呼吸に関する症状が出た場合:医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合(作業工程で生じた粉じん/ヒューム)

皮膚に付着した場合:多量の水/適切な薬剤で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合(作業工程で生じた粉じん/ヒューム)

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。  
眼をこすらせてはならない。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合(作業工程で生じた粉じん/ヒューム)

口をすすぐこと。  
直ちに医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。

医師に対する特別な注意事項

医師に対する特別な注意事項に関する情報なし。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末を使用すること。

#### 使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

### 特有の危険有害性

不完全燃焼すると濃い煙が発生する。

燃焼の際に有毒な炭素酸化物、ケイ素酸化物、金属酸化物を生成する。

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火作業は、可能な限り風上から行う。

#### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

(以下の処置は、作業工程で生じる粉じんが漏出した場合に適用)

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

粉じんが飛散しないようにする。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

高効率の空気浄化フィルター(HEPA)を備えた掃除機で吸引して、容器に回収する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

### 二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

作業工程で発生する粉じん/ヒュームを吸入しないこと。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

作業工程で発生する粉じん/ヒュームが皮膚に触れないようにする。

作業工程で発生する粉じん/ヒュームが眼に入らないようにする。

作業工程で発生する粉じんの堆積を防止する。

#### 安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

接触回避データなし

衛生対策

- 作業工程で発生する粉じんを眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗う。

保管

安全な保管条件

- 清潔な冷暗所に保管すること。
- 安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

(タルク)

日本産衛学会(第1種粉塵)(吸入性粉塵) 0.5mg/m<sup>3</sup>; (総粉塵) 2mg/m<sup>3</sup>

(シリカ)

日本産衛学会(2006)(吸入性結晶性シリカ) 0.03mg/m<sup>3</sup>

(炭素)

日本産衛学会(第1種粉塵)(吸入性粉塵) 0.5mg/m<sup>3</sup>; (総粉塵) 2mg/m<sup>3</sup>

(酸化亜鉛)

日本産衛学会(2021) 0.5mg/m<sup>3</sup> (ナノ粒子)

(カーボンブラック)

日本産衛学会(第2種粉塵)(吸入性粉塵) 1mg/m<sup>3</sup>; (総粉塵) 4mg/m<sup>3</sup>

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

日本産衛学会(2008) 0.1mg/m<sup>3</sup>

(無水フタル酸)

日本産衛学会(1998)(最大許容濃度) 0.33ppm; 2mg/m<sup>3</sup>

(グラファイト)

日本産衛学会(第1種粉塵)(吸入性粉塵) 0.5mg/m<sup>3</sup>; (総粉塵) 2mg/m<sup>3</sup>

(カオリン)

ACGIH(1996) TWA: 2mg/m<sup>3</sup>(E,R) (じん肺)

(タルク)

ACGIH(2010) TWA: 2mg/m<sup>3</sup>(E,R) (肺線維症; 肺機能) (アスベストを含まないもの)

(シリカ)

ACGIH(2003) TWA: 0.025mg/m<sup>3</sup>(R) (肺線維症; 肺がん)

(結晶質シリカ, alpha-クォーツ及びクリストバライト)

(ケイ酸カルシウム)

ACGIH(2016) TWA: 1mg/m<sup>3</sup>(I, E) (じん肺症; 肺機能)

(酸化マグネシウム)

ACGIH(2003) TWA: 10mg/m<sup>3</sup>(I) (上気道刺激; 金属ヒューム熱)

(酸化亜鉛)

ACGIH(2003) TWA: 2mg/m<sup>3</sup>(R)

STEL: 10mg/m<sup>3</sup>(R) (金属ヒューム熱)

(マイカ)

ACGIH(2020) TWA: 0.1mg/m<sup>3</sup>(R) (じん肺)

(カーボンブラック)

ACGIH(2011) TWA: 3mg/m<sup>3</sup>(I) (気管支炎)

(硫酸バリウム)

ACGIH(2014) TWA: 5mg/m<sup>3</sup>(I, E) (じん肺症)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

ACGIH(2014) TWA: 0.05mg/m<sup>3</sup>(IFV) (体重及び血液学的影響)

(無水フタル酸)

ACGIH(2017) TWA: 0.002mg/m<sup>3</sup>(IFV);

STEL: 0.005mg/m<sup>3</sup>(IFV) (呼吸感作; 喘息)

(グラファイト)

ACGIH(1991) TWA: 2mg/m<sup>3</sup>(R) (じん肺)

**特記事項**

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

皮膚感作性

(無水フタル酸)

皮膚吸収; 皮膚感作性; 呼吸器感作性

**ばく露防止**

**設備対策**

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

**保護具**

**呼吸用保護具**

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

**手の保護具**

保護手袋を着用する。

**眼の保護具**

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

**皮膚及び身体の保護具**

保護衣を着用する。

**9. 物理的及び化学的性質**

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：固体（シート状）

色：黒色

臭い：かすかなゴム臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点データなし

自然発火点データなし

分解温度データなし

pHデータなし

動粘性率：適用外

溶解度：

水に対する溶解度：不溶

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

密度及び/又は相対密度：1.450 - 1.950g/cm<sup>3</sup>

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性：適用外

**10. 安定性及び反応性**

反応性

- 反応性データなし
- 化学的安定性
  - 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
- 危険有害反応可能性
  - 危険有害反応可能性データなし
- 避けるべき条件
  - 避けるべき条件データなし
- 混触危険物質
  - 混触危険物質データなし
- 危険有害な分解生成物
  - 熱分解により以下の物質を生成する。
  - 炭素酸化物、ケイ素酸化物、金属酸化物

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

##### 急性毒性(経口)

###### [製品]

データ不足のため、分類できない。

###### [成分データ]

###### [日本公表根拠データ]

(シリカ)

rat LD50 >3300mg/kg, >2000mg/kg et al. (ECETOC JACC, 2006; SIDS, 2006)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

rat LD50 >3800mg/kg (PATTY 6th, 2012)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

rat LD50=865mg/kg (IARC 53, 1991)

(無水フタル酸)

rat LD50=800-1600mg/kg (ACGIH 7th, 2014)

##### 急性毒性(経皮)

###### [製品]

データ不足のため、分類できない。

###### [成分データ]

###### [日本公表根拠データ]

(シリカ)

rabbit LD50 >2000mg/kg, >5000mg/kg (ECETOC JACC, 2006; SIDS, 2006)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

rabbit LD50 >7940mg/kg (PATTY 6th, 2012; BUA 237, 2000)

(無水フタル酸)

rabbit LD50 >10000mg/kg (DFGOT vol. 25, 2009)

##### 急性毒性(吸入)

###### [製品]

データ不足のため、分類できない。

###### [成分データ]

###### [日本公表根拠データ]

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

mist: rat LC50=0.3mg/L/4hr (ACGIH, 2008)

##### 労働基準法: 疾病化学物質

無水フタル酸; テトラメチルチウラムジスルフィド

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性/刺激性

###### [製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酸化亜鉛)

ラビット no dermal reactions (EU-RAR, 2004)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 2, 強い眼刺激

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(シリカ)

ラビット 回復性の眼刺激性 (SIDS, 2006; ECETOC JACC, 2006)

(酸化マグネシウム)

ヒト 軽度の眼刺激性 (ACGIH 7th, 2003)

(酸化亜鉛)

ラビット no/slight irritant (EU-RAR, 2004)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

ラビット 7日以上回復 (USEPA/HPV, 2003)

(無水フタル酸)

ラビット 中等度の刺激性 (SIDS, 2006)

(人造鉱物繊維)

区分2 眼刺激性 (ATSDR, 2004)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

[製品]

区分 1, 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(無水フタル酸)

cat. 1A (産業衛生学会許容濃度の勧告, 2014)

皮膚感作性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

cat. 1; guinea pig (PATTY 6th 2012, ECETOC, 1999)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

cat. 1A (Contact Dermatitis Frosh 4th, 2006)

(無水フタル酸)

cat. 1 (ACGIH 7th, 2013)

生殖細胞変異原性

[製品]

区分 1B, 遺伝性疾患のおそれ

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

cat. 1B (IARC 53, 1991)

発がん性

[製品]

区分 1A, 発がんのおそれ

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(シリカ)

cat.1A; (ECETOC JACC No. 51, 2006)

(カーボンブラック)

cat.2; IARC Gr. 2B (IARC 93, 2010 et al.)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

cat.1B; IARC Gr. 2A (IARC 115 in prep., Access on Jun. 2016 et al.)

[IARC]

(タルク)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない (Talc, not containing asbestiform fibres)

(ケイ酸カルシウム)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(シリカ)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

(カーボンブラック)

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

Group 2A : ヒトに対しておそらく発がん性がある

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない

[ACGIH]

(カオリン)

A4(1996) : ヒト発がん性因子として分類できない

(タルク)

A4(2010) : ヒト発がん性因子として分類できない (アスベストを含まないもの)

(ケイ酸カルシウム)

A4(2016) : ヒト発がん性因子として分類できない

(酸化マグネシウム)

A4(2003) : ヒト発がん性因子として分類できない

(カーボンブラック)

A3(2011) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

A4(2014) : ヒト発がん性因子として分類できない

(無水フタル酸)

A4(2017) : ヒト発がん性因子として分類できない

[日本産衛学会]

(タルク)

第1群: ヒトに対して発がん性があると判断できる物質

(カーボンブラック)

第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

#### 生殖毒性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(酸化亜鉛)

cat. 2; rat (EU-RAR, 2004)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

cat. 2; mouse (IARC 53, 1991)

#### 特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[製品]

区分 2. 臓器の障害のおそれ

区分 3. 呼吸器への刺激のおそれ

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(タルク)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2010)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(シリカ)

気道刺激性 (SIDS, 2006; ECETOC JACC, 2006)

(酸化マグネシウム)

気道刺激性 (HSDB, 2015)

(無水フタル酸)

気道刺激性 (ACGIH 7th, 2014)

(人造鉱物繊維)

気道刺激性 (ATSDR, 2004)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(無水フタル酸)

麻酔作用 (SIDS, 2006)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[製品]

区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

区分 2, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(タルク)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2010)

(シリカ)

免疫系、呼吸器、腎臓 (ACGIH 7th, 2006)

(人造鉱物繊維)

呼吸器 (EHC 77, 1988)

誤えん有害性

[製品]

データ不足のため、分類できない。

[成分データ]

データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 1, 水生生物に非常に強い毒性

区分 3, 長期継続的影響によって水生生物に有害

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(酸化亜鉛)

甲殻類 (オオミジンコ) LC50=0.098mg-Zn/L/48hr (NITE初期リスク評価書, 2008)

(カーボンブラック)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50 >5600mg/L/24hr (SIDS, 2007)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) ErC50=0.5mg/L/72hr (環境庁生態影響試験, 1999)

(硫黄)

甲殻類 (Mysid) LC50=736mg/L/96hr (Aquire, 2010)

(硫酸バリウム)

甲殻類 (オオミジンコ) EC50=32mg/L/48hr (CICADs, 2001)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

甲殻類 (ミシッドシュリンプ) LC50=0.0036mg/L/96hr (US EPA: RED, 2004)

(無水フタル酸)

魚類 (メダカ) LC50 >99mg/L/96hr (環境省生態影響試験, 2003)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(酸化亜鉛)

藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) NOEC=0.024mg-Zn/L/72hr (0.0299mg-ZnO/L/72hr)

(EU-RAR, 2010)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) NOEC (r)=0.066mg/L/72hr (環境庁生態影響試験, 1999)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) NOEC=0.0243mg/L/72hr (SIDS, 2012)

(無水フタル酸)

甲殻類 (オオミジンコ) NOEC=16mg/L/21days (環境省生態影響試験, 2003)

水溶解度

(カオリン)

溶けない (ICSC, 1999)

(タルク)

溶けない (ICSC, 2012)

(炭素)

溶けない (ICSC, 1994)

(酸化マグネシウム)

溶けにくい (ICSC, 2010)

(酸化亜鉛)

溶けない (ICSC, 2004)

(炭酸カルシウム)

非常に溶けにくい (14 mg/l, 25°C) (ICSC, 2012)

(カーボンブラック)

溶けない (ICSC, 2010)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

0.1 g/100 ml (ICSC, 2004)

(硫黄)

溶けない (ICSC, 2000)

(硫酸バリウム)

溶けない (ICSC, 1999)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

溶けない (ICSC, 2000)

(無水フタル酸)

徐々に反応する (ICSC, 2003)

(グラファイト)

溶けない (ICSC, 1997)

残留性・分解性

[成分データ]

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

BODによる分解度: 2.5% (既存点検, 1977)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

急速分解性なし (2週間でのBODによる分解度: 2.8% (既存点検, 1979))

(無水フタル酸)

BODによる分解度: 85.2% (既存点検)

生体蓄積性

[成分データ]

(酸化亜鉛)

BCF=217 (Check & Review, Japan)

(2-メルカプトベンゾチアゾール)

log Pow=2.41 (ICSC, 2004)

(テトラメチルチウラムジスルフィド)

log Pow=1.73 (PHYSPROP DB, 2005)

(無水フタル酸)

log Pow=1.6 (PHYSPROP DB, 2005)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号：該当しない

正式輸送名：該当しない

分類または区分：該当しない

容器等級：該当しない

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当): 非該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

本品はバルク輸送されない。

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない

有機溶剤等に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

シリカ(別表第9の165の2);

人造鉱物繊維(別表第9の314);

テトラメチルチウラムジスルフィド(別表第9の372);

2-メルカプトベンゾチアゾール(別表第9の602の3, 令和6年4月1日施行);

タルク(別表第9, 令和7年4月1日施行);

酸化マグネシウム(別表第9, 令和8年4月1日施行)

がん原性がある物(規則第577条の2第3項)

シリカ(石英)、

2-メルカプトベンゾチアゾール(令和6年4月1日適用)

名称通知危険/有害物

シリカ(別表第9の165の2);

酸化亜鉛(別表第9の188);

カーボンブラック(別表第9の130);

人造鉱物繊維(別表第9の314);

テトラメチルチウラムジスルフィド(別表第9の372);

無水フタル酸(別表第9の553);

2-メルカプトベンゾチアゾール(別表第9の602の3, 令和6年4月1日施行);

タルク(別表第9, 令和7年4月1日施行);

酸化マグネシウム(別表第9, 令和8年4月1日施行)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年4月1日施行)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年4月1日施行)に該当しない。

消防法に該当しない。

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

大気汚染防止法

有害大気汚染物質

酸化亜鉛(中環審第9次答申の1)

テトラメチルチウラムジスルフィド(中環審第9次答申の125)

廃棄物処理法

特別管理産業廃棄物: 特定有害産業廃棄物

テトラメチルチウラムジスルフィド

法令番号19: 埋立処分判定基準 <= 0.06mg/liter

土壌汚染対策法

第三種特定有害物質 農薬等

テトラメチルチウラムジスルフィド

政令番号16:

溶出量 <= 0.006 mg/liter

第二溶出量 <= 0.06 mg/liter

地下水 <= 0.006 mg/liter

土壌環境 <= 0.006 mg/liter

水質汚濁防止法

有害物質

テトラメチルチウラムジスルフィド

法令番号 19: 0.06mg/liter

指定物質

酸化亜鉛  
法令番号 54

16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN  
IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)  
IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)  
2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)  
2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
JIS Z 7252 : 2019  
JIS Z 7253 : 2019  
2021 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)  
厚生労働省 基安化発0111第1号(令和4年1月11日)  
Supplier's data/information  
GESTIS-Stoffdatenbank  
Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。  
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和3年度(2021年度))です。